

2022年度 人間学研究科(結果)

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)	評価の理由/課題/根拠データ等	ACTION(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標と実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う	評価	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる。
B'sVision2024の方針に基づき、自立と共生の理念を踏まえた教育方法の改善を図る。具体的には、教育力日本一及び永久サポート大学の観点から以下各コースにおけるPLAN(計画)を策定する。	各コースB'sVision2024の方針に基づき、自立と共生の理念を踏まえた教育方法の改善を図るため、PDCAサイクルとリンクさせながら最重要課題及び達成目標を掲げた。	100%	すべての最重要課題及び達成目標項目をクリアすることはできなかったが、到達に向け教員組織と事務局が協働しながら一丸となって取り組んだ点は評価できる。	研究科委員会議事録	具体的且つ各論となる課題や問題点についてはクリアできたが、中・長期的課題、いわゆる「永久サポート大学」や「教育力日本一」については半永続的な視点となるため、継続的に「PLAN」として掲げていきたい。
社会福祉学コースは、新カリキュラム、新メンバーによる教育の安定と魅力ある教育の構築するため、グループでの学会等の参加など、研究の場に触れさせるような、専門的研究法の指導を行う。	新カリキュラムを新メンバーで滞りなく実施。年度途中で、退職者があっても、新教員を途切れなく配置して授業を継続。修士論文指導の中で、国外を含めて質的調査を実施。	予定授業の実施は100%、調査の実施は50%。	新カリキュラムについては、学生の履修率も良く、評価も良かった。学園祭の参加はフィールドワーク的な研究の場といえるが、学会参加等のより専門的な取り組みはできなかった。	履修登録状況。成績評価。授業アンケート。修士論文。	新カリキュラムについての評価会議を実施する。指導教員の所属している学会など、外部の研究機会への参加を促す。社会福祉研究法特別研究の内容を一新し、所属教員のさまざまな研究法を紹介し、身に着けさせることで、専門的研究法の力量を上げるようにする。
ホームページの詳細な点検と完全リニューアルを実施する。語学サポートの体制構築する。学部と連携し、ホームカミングデーをあやめ祭でブースとして設置、広報につなげる。	HP点検後、リニューアルおよび修正。あやめ祭で、「中華製造」というブースを設置。中国グッズ、食品の販売を通して地域住民、施設との交流をする。あやめ祭でホームカミングデーを実施し、卒業生の活躍を来場者に披露する。語学サポート体制構築検討。	HPリニューアル、あやめ祭ブース、ホームカミングデー実施は100%。	あやめ祭参加は学生には良い経験になったとのこと、伝統にできればと思ふ。ホームカミングデーは学部中心になったので、院生の活躍も披露できるようにしたい。語学サポートは体制構築の結論が出なかった。	あやめ祭のパンフレット、学部教授会資料。	入学生への語学サポートの確認および手配をする。大学としての語学サポートのシステム構築をどのようにするか継続して検討する。ホームカミングデーへの院生の参加を検討する。
保育学コースは、コース学生の確保に科目等履修生へのコース入学の促進、幼稚園専修免許状取得、並びに臨床発達心理士の受験資格に関する広報、及び免許資格取得の支援、高度な専門的人材の育成に関する実績アピールとそれを保障するためのコース運営を図るため、修了後の進路状況の広報等により専門性の高い研究・学習の機会となることをアピールする。	今年度も科目等履修生が通年で在籍し、臨床発達心理士資格の受験に向けた相談等の対応も行った。コース学生及び科目等履修生募集の広報に関しては、大学HPリニューアルに併せた内容の見直しを行なった一方、科目等履修生募集用リーフレットの刷新は実施できなかった。	科目等履修生1名が前期・後期に在籍(100%)。HPリニューアルを実施した一方、リーフレット改訂は未実施(50%)。	科目等履修生の在籍はあったが、例年よりも少なく、次年度はコース学生及び科目等履修生はない予定となった。募集リーフレットの作成及び配布を準備する共に、大学HP以外の媒体(パンフレット等の作成)を提案していく。	学生数・履修登録数。大学HP。	人間学研究科並びに保育学コースに係るポリシーの検討を含めた保育学コースの学生募集について、本コースや人間学研究科での検討し、対応可能なものから実施する。
幼稚園専修免許状及び臨床発達心理士について高度な専門性に資するコース開設科目及び担当教員について検討し、保育学コースカリキュラムの改訂を行う。リーフレット等を改訂し、免許資格関連科目にして広報すると共に、円滑なコース運営を行う。学生等の研究計画やキャリアデザインを尊重した指導等に関する研修等を行う。	保育学コースで開設科目及び担当教員領域に関する現代的事項を踏まえ、幼稚園教諭専修免許状及び臨床発達心理士科目に関する科目を再構成した。コース教員での検討会議と共に大学院FD等の機会に、学生指導係の意見交換等を含めた。	コース会議等の実施、新カリキュラムの策定を行なった(100%)。	予定授業の実施は100%、調査の実施は50%。	新カリキュラムに関する書類、大学院FD資料。	今年度検討した継続したコース・カリキュラムの充実に向けて、科目開設及び担当教員の検討を行うと共に、学生指導等に関する研修や情報共有を行う。
臨床心理学コースは、公認心理師・臨床心理士養成のための教育の充実化、就職率の向上、院生の研究力強化を図るため、実践的に活動できる人材育成に向け教育・実習を充実させる。就職内定率を80%以上とする。学会発表、論文執筆を働きかける。	就職先の紹介や資格取得のための勉強会の開催、論文執筆のための働きかけを実施した。臨床心理学コースの資格取得率は公認心理師57%、臨床心理士50%、就職率67%。論文は国内のトップジャーナルへの投稿1件(査読中)。	100%	就職率は目標基準を下回っているが、現在、施設側からの結果待ちなどもあり、今後、向上することが見込まれる。資格取得率はこれまでの中で最も低い結果となった。論文投稿は目標を大きく達成している。	アンケートや自己評価点検	常勤職に就き時間の余裕がなかった者の合格率が低い傾向にあったため、在学中からの公認心理師、臨床心理士合格のための試験対策として公認心理師特講の教育内容充実や勉強会の開催する。就職率の向上のためキャリアセンターとの連携を図る。
継続審議である特別課題について検討していく。	各コース会議、教務委員会から運営協	100%	各コース、在籍院生及びアドミッションポリシー等を鑑みつつ、慎重な審議を行い研究科委員会にて承認された。	人間学研究科履修及び課程修了規程第15条～第18条	審議終了のため継続的な協議はなし。従って、「課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる」ACTIONは現時点においては設定しない。

2023年度 人間学研究科

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
B'sVision2024の方針に基づき、自立と共生の理念を踏まえた教育方法の改善を図る。具体的には、教育力日本一及び永久サポート大学の観点から以下各コースにおけるPLAN(計画)を策定する。
社会福祉学コース 新カリキュラム、新メンバーによる授業の充実。 ・多様な学生に対する自主的な学習環境の構築。
・新カリキュラムについての評価会議を実施する。 ・指導教員の所属している学会など、外部の研究機会への参加を促す。 ・社会福祉研究法特別研究の内容を一新し、所属教員のさまざまな研究法を紹介し、身に着けさせることで、専門的研究法の力量を上げるようにする。 ・入学生への語学サポートの確認および手配をする。 ・大学としての語学サポートのシステム構築をどのようにするか継続して検討する。 ・ホームカミングデーへの院生の参加を検討する。
保育学コース ・コース学生の確保に科目等履修生へのコース入学の促進。 ・幼稚園専修免許状取得、並びに臨床発達心理士の受験資格に関する広報、及び免許資格取得の支援。 ・高度な専門的人材の育成に関する実績アピールとそれを保障するためのコース運営。
・実践的に活動できる人材育成に向け、教育・実習を充実させる。 ・就職内定率を80%以上とする。 ・学会発表、論文執筆を働きかける。
臨床心理学コース ・公認心理師、臨床心理士養成のための教育の充実化 ・就職率の向上 ・院生の研究力強化
・修了後の進路状況の広報等により専門性の高い研究・学習の機会となることをアピールする。 ・幼稚園専修免許状及び臨床発達心理士について高度な専門性に資するコース開設科目及び担当教員について検討し、保育学コースカリキュラムの改訂を行う。 ・リーフレット等を改訂し、免許資格関連科目にして広報すると共に、円滑なコース運営を行う。 ・学生等の研究計画やキャリアデザインを尊重した指導等に関する研修等を行う。

2022年度 人間学研究科(結果)

PLAN(計画)		DO(実施)		CHECK(評価)		ACTION(次への改善)	
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。		D:計画を実行しその効果を測定する。		C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる。	
		実施状況(実施率)		評価			
院生の受け入れに対する適正性(アドミッション・ポリシー)について、自己点検、評価体制とその方法を構築していく。		院生指導を行う中で、指導上の課題や問題点を把握した2022年度であった。その中で各コース改善点及び今後の課題を分析していった。		50%		修士論文の指導及び執筆がCHECK(評価)項目となるが、社会福祉学コースは院生の「日本語レベル」に課題がある。保育学コースは「データの分析方法」に課題がある。臨床心理学コースは質の向上が期待される。	
教学IRの視点から今年度もFDの充実化を図り遂行する。		2022年11月研究科委員会終了後FD研修会を実施。「コース運営」についての協議が行われた。		100%		具体的な改善策の立案及び具体的なアクションプランの策定までは到達しなかったが、各コースの現状把握と課題の抽出まではたどり着いた。	
						コース会議・教務委員会・運営協議会・FD研修会	
						FD研修会	
						各コースの課題を分析し対処する必要がある。社会福祉学コースは日本語レベルの向上が課題である。保育学コースは「研究の分析方法」に注力したい。臨床心理学コースは研究力向上と資格取得率向上のための方策が必要である。	
						今回のFD研修会の成果を基に、2023年度のFD研修会内容を吟味すると、よりブラッシュアップされた協議が期待される。	

2023年度 人間学研究科

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。